

令和7年1月16日
RIETI/BBLセミナー

「不確実性と日本経済 ー計測・影響・対応ー」 に対するコメント

コメンテータ：井上 誠一郎（経済産業省大臣官房審議官）

※本資料は自らの責任で個人的な見解を記載したものであり、所属する組織の見解を示すものではありません

「不確実性と日本経済 —計測・影響・対応—」の特長

- 「不確実性」の概念や計測方法、マクロ経済・企業・家計に与える影響等に関する諸研究の成果を平易かつ簡明に解説
 - エコノミスト・アナリスト・コンサルタントはもちろん、政策実務者や企業の調査担当等にとって有用な知見が豊富
- 森川氏の研究成果に加え、多数の既存研究のサーベイに基づいており、巻末の参照文献に400本近い論文が掲載
 - 読者にとって特に関心のあるテーマに関する論文を探す上で「水先案内人」にもなってくれる

コメンテータ（井上）にとって特に学びになった知見の例

- 不確実性は多くの経済活動にとってマイナスの影響があるという分析が多いが、為替レートのボラティリティが貿易に及ぼす影響については有・無の両方の分析結果があり、確定的でない
(本書の226～227頁目)
- 経済産業省「製造工業生産予測調査」に基づく分析から、企業の生産予測は事後的にみると平均で▲2.4%下振れしているが、上振れ企業の期間平均値は+12.8%の上振れ、下振れ企業の期間平均値は▲14.5%の下振れ
(本書の107～119頁目)